



国労仙台

No. 2576
2010年3月3日
発行責任者 橋本 昭二
編集責任者 武田 昌仙

10春闘勝利に全力を

第121回 地方委員会より

2月20日、仙台市こくろつ会館において、第121回定期地方委員会が開催された。委員会は出席した委員の真摯な討論の結果、議案は全て承認され、当面する諸課題と10春闘勝利に向けた取り組みの意思統一が図られた。

委員会は中島副委員長の司会で開会し、議長には互選により宮城県支部の山田



委員が就任。主催者を代表して橋本執行委員長は以下の挨拶を述べた。
油断せず、闘いを強化する
JR不採用問題の政治解決を求める闘いについて
2・16集会は解決報告集

させない解決への決意が。12月25日には与党3党が鉄道・運輸機構に「当事者間で和解に向けた話し合いを開始するよう」要請

1月13日には与党3党担当者と政府・国交省担当者が協議、早期に解決することを確認。内容は、政治的に解決する。与党3党が解決案を作る。3月までに解決に努める、の3点。
1月25日には「四者・四団体」が与党3党に対し、「当事者が路頭に迷わない解決要求」の提出と説明、1月27日には、鉄道・運輸機構に話し合いテーブルの設置を強く求めた。
更に、1月27日の参議院予算委員会での公明党弘友議員の質問に対しての前原国交大臣と鳩山総理の答弁があり、2月4日の社民党又市議員の質問に、鳩山総理が「政権の思いとして解決したい」と答弁。
現在与党3党が解決案の作成中であり、2月中には取りまとめられる予定に。
2・16集会では、高橋委

- 来賓 (敬称略)
- 社会民主党 大槻正俊
 - 日本共産党 福島かずえ
 - 宮城県平和労組会議 菅原厚
 - 全交連共済生協 伊賀泰
 - 国労議員団 石川 建治
 - 国労東日本本部 松井 正義

- 2・8 共済担当者会議(福島県)
- 2・9 共済担当者会議(宮城県)
- 2・10 共済担当者会議(山形県)
- 2・13/14 国労仙台家族会総会
- 2・14 アスベスト対策委員会
- 2・16 中央集会/全国代表者会議
- 2・17 バス団交
- 2・18 第4回春闘事務局会議
- 2・20 第121回地方委員会
- 2・24 東日本業務部長会議

24年を越させない

24年目の「JR不採用通告日」にあたる2月16日、「JR不採用問題解決へ!」2・16中央集会」が日比谷野外音楽堂で開催された。みぞれまじりの冷たい雨の中、四千名の仲間が結集した。
主催者を代表し、国労本部高橋委員長は「与党三党を軸に、具体的解決案作成の大きな正念場を迎えている。24年を越させない解決を実現させるために支援を」と訴えた。
また国鉄闘争共闘会議の二瓶議長は「路頭に迷わない解決には、雇用・年金・解決金を与党案に入れさせることが重要。その感触はあるし、入らなければ和解を蹴るつもりだ」と強い決意を述べた。

連合結成から20年、「終焉」と言われた春闘の再構築を真剣に考え取り組む時期に。
一方、私鉄総連のように統一要求を掲げ闘う姿勢を示し、春闘再構築に繋げる動きも。国労は中央委員会で五千円の賃金引き上げ要求と、重点要求、さらに制度改善要求を掲げ、2月10日、各社一斉に申し入れ。また18日に東日本会社に對し、夏季手当3・2ヶ月の要求を提出。
【国労仙台闘争団にゆーす No122より抜粋】
内部留保金の一部還元で、雇用と賃上げは十分に可能。政権交代しても、仕組みを換えなければ、「貧困と格差」は解消できない。労組がその役割を果たすべき。今春闘を仙台から精一杯闘い抜くための討論と実践を要請する。
組織強化拡大について
1月1日、自動車支部に岩崎宏さんが加入。一昨年の兜森さんの加入に続き、



分会から投稿記事

小牛田運輸区分会より、以下二点の内容について投稿記事が寄せられたので掲載する。同分会では掲示板にその内容を張り出し(写真)同じ職場で働く仲間呼び掛けている。



東日本本部の取組みと課題

政党等から激励・連帯の挨拶を受け、また佐藤婦人部長が委員会に寄せられたメッセージを讀上げ披露した。その後、単産報告として、宮城交通労組菅原厚書記長より、「宮城交通の現状と10春闘に向けた取組み」と題した報告を受けた。

其の一 皆さんはどう思いますか? 其の二 要員は十分なんだろうか?

過日、通勤中に雪の影響により自家用車が走行不能になり、出勤時間に間に合わない為に出勤遅延になりました。列車通勤の場合は、列車が遅れたときは通勤災害となりますが、車通勤の場合はほとんど通勤災害とはなりません。それで良いのでしょうか? 今回の場合、出勤時間には十二分に余裕のある時間に自宅を出発しています。当直に連絡を入れた時間も出勤時間の前でした。全ての労働者が鉄道沿線に自宅がある訳ではありません。ましてや、出勤時間が各ダイヤ毎に1分単位で違う乗務員の勤務が現実としてあり、日々運用されている以上、不可抗力等の事情による出勤遅延は通勤災害と認めるべきだと思います。そうでなければ無理をして不便な列車で通勤するか、出勤時間の何時間も前に職場に到着する時間に出発するか、はたまた前泊をする以外には・・・これらの方法で出勤遅延を防止するしかありません。労働者にだけ負担を強いている、現在の制度や運用を改める事が必要だと思えます。

12月末から今月において、勤務発表後に連日に亘り「休日勤務」要請が各運転士に対して執拗に行われています。どうしても断りきれずにしぶしぶOKをしている労働者も多くいます。毎年実施されているダイヤ改「正」において、乗務員では各行路の出退勤時間及び労働時間が明示されます。また、行路順序表も明らかになります。労働組合から見れば、全て満足のいく物はありませんが、各労働組合が妥結をして運用されています。しかし、「休日勤務」は自らの意思により行う物です。現在の状況は不祥事もあります。当初からの計画を見直しすれば、「休日勤務」の要請は十分に回避出来たと思われれます。また、これまでの要員が本当に適正だったのでしょうか? 「休日勤務」で業務を回してきた付けが表面化してきたと考えるべきです。労働者が必要とする年休、臨時列車の運行や必要な教育・訓練を受けさせる為にも、十二分な要員の確保・配置を求めたいこう。

「あつせん申請」をしたが、劇的な変化はない。和解を享受できている職場とそうでない職場の違いの再検証が必要。享受できないのであれば、会社側に再度求めたい。正常かつ健全な労働関係は企業の健全な発展に不可欠。職場に根付かせの取組みが急務。安全・安心して働ける職場作り。コスト優先の市場原理主義の構造改革路線、規制緩和により、車両や設備の検査周期の延伸等があった。結果、安全・安心・信頼が損なわれている。検修合理化提案は、施設メンテナンス合理化を彷彿。東日本本部は合理化対策会議を設置し、職能別協議会と地方本部、関係する職場の協力のもと、現在第二次解明要求を提出し交渉する段階に。施策はエルダーとリンクするが、規制緩和に基いた外注化施策であり、車両の品質と職場を守る闘いを取組む。検修外注化等、運転士・車掌以外の職場にアウトを伴う施策が導入されよう

質疑討論を経て 経過 方針を承認

地方本部五十嵐書記長より大会以降の経過と方針等が一括提起され、休憩を挟んで委員からの質疑と執行部からの答弁があり、最終的に五十嵐書記長の集約答弁が行われた。続いて経過・運動方針が承認された後、委員会宣言が提案・承認され、全ての議事が終了。山田議長が退任し、中島副委員長が閉会の挨拶を述べ、最後に橋本委員長の団結願張ろうで終了した。【委員の発言と答弁については後日掲載】

26日の戦術委員会では、賃上げや合理化事業に対するストの設定等が決定する。今後、青森新幹線延伸など大きな事業、また検修外注化と設備メンテナンス見直し事業など課題が山積しており、国労の存在感を示すとき。その延長線上に組織拡大がある。

2月13～14日、国労仙台家族会09年度総会が、警梯熱海温泉浅香荘において開催されました。総会は上遠野副会長の挨拶で開会し、主催者を代表して真屋会長は「夫たちの運動を支え、東日本家族会との連携を強め、仙台家族会の組織を拡大し、学習交流の輪を広げていきましょう」と挨拶を述べました。来賓として、東北交通共済より佐藤副本部長、仙台地本佐藤婦人部長から挨拶を受け、また地方本部五十嵐書記長より情勢報告がありました。議事に移り、09年度経過報告、10年度活動方針、スローガンが参加者全員の拍手で確認され、また10年度役員については全員が再任となりました。

家族会が総会

2月13～14日、国労仙台家族会09年度総会が、警梯熱海温泉浅香荘において開催されました。総会は上遠野副会長の挨拶で開会し、主催者を代表して真屋会長は「夫たちの運動を支え、東日本家族会との連携を強め、仙台家族会の組織を拡大し、学習交流の輪を広げていきましょう」と挨拶を述べました。来賓として、東北交通共済より佐藤副本部長、仙台地本佐藤婦人部長から挨拶を受け、また地方本部五十嵐書記長より情勢報告がありました。議事に移り、09年度経過報告、10年度活動方針、スローガンが参加者全員の拍手で確認され、また10年度役員については全員が再任となりました。



家族会の夫7名が加わり賑やかな交流会になりました。夫たちの協力もあり、ピンゴゲームやカラオケなどで大いに盛り上がりました。特に水戸家族会の佐藤さんのフラダンス、高木さんのカラオケは参加者の目と耳をひきました。一日目は、猪苗代でそば打ち体験や藤細工体験をするなど、終始和やかな交流となりました。【婦人部発】